

電子情報技術産業協会（JEITA）より「功労賞」を受賞

JEITAでの品質信頼性の分野における国際的な活動に対し、JEITA 半導体標準化委員会から功労賞を受賞しました。

先端的な電子情報機器においては、標準化を制するものが市場を制すると言われています。LSIの品質信頼性の分野でも、数年前から米国のJEDECが標準化を進めており、JEDEC＝国際規格になるかもしれないという状況でした。そこで、国内半導体各社の信頼性技術者がJEITAに結集し、JEDECに先んじて世界に通用する品質信頼性規格を制定する活動を始めました。さらには、それをIEC規格にすることで、世界のLSIの品質信頼性を日本が主導することを目指したのです。

*JEITA: Japan Electronics and Information Technology Industries Association: 社団法人電子情報技術産業協会
*JEDEC: Joint Electron Device Engineering Council: 米国電子デバイス工業会

当社は、プロセス信頼性評価の分野でJEITAのプロジェクトリーダーを務め、各種のプロセス信頼性試験方法をJEITA規格として制定することに貢献してきました。また、IECにおいても各国委員からのさまざまな意見を調整し、JEITA規格を順次、IEC規格として制定することができました。このような、品質信頼性の分野における国際的な活動に対し、当社の松山（品質保証統括部信頼性技術部）がJEITAから功労賞を受賞しました。

JEITA半導体標準化委員会表彰とは

社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）・半導体標準化委員会が、JEITA半導体標準化委員会活動における標準化事業活動の功労者、貢献者を半導体標準化委員長名で表彰するものです。

受賞にあたって

今回、このような栄えある賞をいただけ感動しています。気が付いたら個人的に表彰されるのは大学の運動部時代以来でした。

私は2000年頃より標準化活動に携わっています。同業他社の皆さんやJEDECの信頼性技術者と議論し、少しずつ互いの認識の違い、目指すところを詰めてきました。特に米国のエンジニアと話し合うときには、根拠が明確でなければいけません。しかし逆に言えば、論理が明確で正しく主張すれば理解してもらえることがよくわかりました。

標準化活動は半導体事業の土台を支えるような活動です。非常に重要ですが、地味で時間のかかる仕事です。受賞により感動すると同時に、こうした活動を皆さんに知っていただくよい機会だと思っています。

今回の受賞を励みに、より良いデバイス作りに励んでいこうと思っています。

製造本部 品質保証統括部 信頼性技術部 担当部長 松山 英也

